



編集・発行 カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
チームミニストリー：後藤正史神父(モデレーター), アルベルト神父, 豊田尚臣神父
〒730-0016 広島市中区幟町4番42号
TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486
<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2013年3月号 No.453

信仰年は、信仰の宝を思い巡らし、原点に立ち返り、生きること

ベネディクト16世「信仰の門」を読んで



シメオン後藤正史神父

■信仰の門、キリスト者とは

私たちは、信仰の門に入り(洗礼を受け)、全く新しい生涯にわたる旅に出発します。この復活祭にも私たち教会にこの旅に新たな仲間が加わります。そして、永遠のいのちに過ぎ越す(帰天する)ことで、この世での旅は終わりを告げます。いつどこにあっても、うれしい時も苦しい時も、私たちと共に主なる神が歩いておられると信じます。「恐れるな、くじけるな」という励ましの声が絶えず、聞こえてきます。わたしたちは神にいつそう自分をゆだねる以外に、人生における真の喜びを見いだせません。

■第二バチカン公会議

第二次世界大戦後、世俗化や科学主義偏重の時勢に真正面から向き合っ、聖霊の導きのもと、どちらかというと内向きの教会観から世界や社会に派遣されている教会観へとカトリック教会は大きく変革されていきました。それを主導したのが第二バチカン公会議(1962~1965)で、今なお教会刷新の推進力となっています。

■世におけるあかし

私たちの信仰は私的な行為にとどまるものではありません。私たちは、自らの信仰を告白し、神と共に生きる喜びを宣べ伝え、あかしするよう招かれています。そのあかしを支えるものは典礼と秘跡にほかなりません。中でもミサは信仰生活の源泉であると共に頂点でもありますから、とことん大切にこそ、家庭で、地域で、社会で、世界で、キリストの福音をあかしできると公会議は教えます。世が今日、渇き求めているのは、信頼できる人のあかしです。

■カトリック教会のカテキズム

多くの宗教の中でも、カトリック教会は、私たちの生活を支える重要な柱として、祈りとともに学びや研修を信者に求めています。第二バチカン公会議の大きな実りとして、「カトリック教会のカテキズム」(1992)が發布されました。これによって、私たちは信仰内容を体系的に知る道が開かれました。できれば、手元において、おりにふれて、関心事項から読み進むことが勧められます。また、「カトリック教会のカテキズム、要約」(2005)は簡略にされていて、読みやすくなっています。この本

は少なくとも一家に一冊、備えておきましょう。

■回心とゆるし

信仰年開始に当たって、教皇ベネディクト十六世(2013年2月28日、退位)が強調なさっていることは、絶えざる悔い改め(回心)と刷新の努力です。神の前に、謙虚に自分の過ちを認め、ゆるしをいただいてこそ、新しい心をもった、新しい人になって、キリストを、キリストの福音を素直に人々と分かち合う力が与えられます。

■信仰の歴史をたどる

信仰の歴史は「聖性と罪」がより合わされていると教皇は率直に認めています。聖性のありようは生活のあかしを通して、共同体が豊かに成長したことを示しています。一方、罪は、一人一人がたゆまぬ回心を行うよう求めています。私たちは個人として、また共同体として、みずからの歴史をたどり直しながら、未来に向かって歩いていきましょう。

上記のポイントのどれか一つに焦点をあてて、信仰年すごしてみよう。

「喜びの反対は悲しみではなく、不信である」

野間神父様の 思い出

2月号に続き、野間神父様の思い出を紹介します。



From
聖母幼稚園
JM

1976年、幟町教会の主任司祭で聖母幼稚園の園長であった中山助人神父様が一月に急逝され、当時廿日市教会の主任司祭だった野間神父様が急きよ聖母幼稚園に着任されました。

その後、10年余り園長としてご指導いただきましたが、その間教会では献堂25周年やヨハネ・パウロ二世のご訪問、またマザーテレサをお迎えする

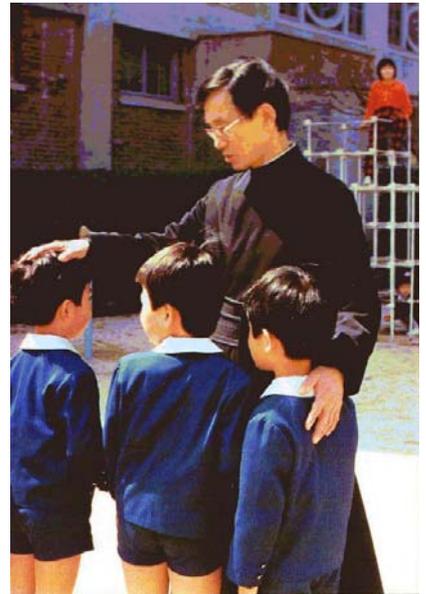


など二度とない大きな出来事もあり、主任司祭として喜びと共に大変な思いをされた事と思います。

園長先生としての思い出は数々あってどれも温かく、そして厳しくシャイな面も思い出されます。

春の午後突然来られて「花見に行こう」、「エッ今からですか」と午後の予定がこなせなくなるシスターは少々不機嫌。でも私たちは大喜びでゴザとやかんを持って縮景園へ、コンビニもブルーシートもない時代、それでも花の下ではみんな幸せで花吹雪の下で極普通のお弁当を食べて満足して帰る、これが例年の聖母のお花見となりました。

固い顔で事務所にこられても、目が笑っている時はジャンパーの中からホカホカの焼き芋や二重焼が出てきました。時には笑えない冗談を披露して一人で楽しそうに笑って帰られる事もありました。いつも同じ服を着ておられるので、みんなで相談して、クリ



スマスにはジャンパーやカーデガン・靴などを差し上げましたが一度も新しい物を使った姿は見る事ができませんでした。

亡くなられる2カ月くらい前、病院に伺ったらベッドの横にすっかり色のはげ落ちたあの鞆(初めは何色だったのか)があり、神父様は最後まで清貧を捧げられたのだなと納得したのでした。

シャイでお堅い神父様は先生達の服装にも大変厳しくジーパンだめ、ノースリーブだめ、ミニスカートなどはもっての他、いつも女性らしくきちんとした身だしなみで…とってお



れるようでした。

保護者の方にもずい分気遣いをされ、バザーの前後は夜遅くまでお父様方にお付き合いをされていたようです。

葬儀のあと集まった先生たちと「あの厳しさ・あの優しさ・あの温かさが野間神父様そのものなのよね～」と懐かしく話しました。

神父様、天国から聞いていますか？見えていますか？まじめな顔で、そして目の奥で笑いながら。

数々の温かく楽しい思い出をたくさん本当にありがとうございました。



昭和25年(1950年)頃、エリザベト音大の前の建物にザビエルホールがありました。そこで、クリスマスには、毎年、聖劇をやっていました。その劇の主役に、神学校に行かれる前の野間青年がおられたと記憶しています。劇中の音楽は、蒔田尚昊君(「ガリラヤの風かおる丘で」、「帰ってきたウルトラマンの歌」の作曲者・冬木透)が担当でした。私はその頃、まだ信者では有りませんでした。エリザベトの絵画教室に通っていたので、Oさん達と聖劇のバックを製作しました。劇の練習の帰りには、よくお世話を下さっていた野間青年が、ジープで皆を送り届けて下さいました。

野間神父様のお姉さん一家(Fさん)はとても優しく、まだ食料難の時代に、さつま芋や、色々な物を食べさせて下さいました。

野間神父様とFさんの写真

が先月号に載っていましたが、Fさん(お姉さん)は神父になる事について、二人でしっかり話し合ったと話しておられました。



使徒ヨハネ野間重信神父

1925年12月8日生まれ
1948年幟町教会にて受洗
1962年12月22日ローマにて司祭叙階
1965年より、幟町教会、廿日市教会、観音町教会、松江教会、岡山教会、福音の光修道院チャプレンなどを歴任。その間、司教顧問、地区長、幼稚園園長を兼任。
2012年12月8日帰天。享年87

3月からの行事予定

- 3/10(日) †四旬節第4主日
信仰年勉強会(9:30 ミサ
後、猪口助祭)
高齢者の集い
日曜学校四旬節黙想会
- 3/15(金) 愛宮ラサール座
禅会(19:00 地下聖堂)
- 3/17(日) †四旬節第5主日
10分間掃除
日曜学校卒業式
- 3/20(祝) グエン・クアン・
トゥアン助祭 司祭叙階式
(14:00)
- 3/21(木) 祈りの集い
(18:30 地下聖堂)
- 3/24(日) †受難の主日
合同ブロック会
- 3/27(水) 聖香油ミサ
(14:00)
- 3/28(木) †主の晩餐
(19:00)
- 3/29(金) †主の受難(19:00)
- 3/30(土) †復活徹夜祭
(19:00)
- 3/31(日) †復活の主日
家族デー
- 4/7(日) †復活節第2主日
教会掃除
パイプオルガン定期演
奏会
- 4/12(金) みことばの分かち
合い
- 4/14(日) †復活節第3主日
高齢者の集い
- 4/19(金) 愛宮ラサール座禅
会(19:00 地下聖堂)
- 4/21(日) †復活節第4主日



編集後記

灰の水曜日のミサで、豊田神父様から断食の期間に入るといってお話を聞きました。私は高校・大学と修道院が運営する寮生活をしていたのですが、大学の時はシスターと同じ食事でしたので、毎週金曜日はお肉を食べない食生活でした。幼稚園でもおやつを我慢する期間があり、今思えばあれが四旬節の断食だったのでしょうか。復活祭までのわずかな期間ですが、キリストの苦しみを少しでも分かち合うため、金曜日のメニューは心がけてみましょう。(か)

